

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道497号 <small>いまり</small> 伊万里道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局		
起終点 自：佐賀県伊万里市南波多町府招 至：佐賀県伊万里市東山代町長浜	延長 6.6km			
事業概要 伊万里道路は、西九州自動車道の一部を形成する高規格幹線道路であり、地域間の連携を図り、地域の活性化や物流の効率化に寄与するとともに、国道202号の災害時における代替路線としての機能確保を目的とした事業である。				
H7年度事業化	H18年度都市計画決定 (H - 年度変更)	H22年度用地着手	H - 年度工事着手	
全体事業費	約249億円	事業進捗率	12%	
計画交通量	19,100～21,100台/日		供用済延長	0.0km
費用対効果分析結果	B / C (事業全体) 2.0 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 190/232億円 (事業費：168/210億円) (維持管理費：22/22億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 472/472億円 (走行時間短縮便益：336/336億円) (走行経費減少便益：75/75億円) (交通事故減少便益：61/61億円)	基準年 平成27年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.9～2.2 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.9～2.2 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.8～2.2 (事業期間 ±20%)				
事業の効果等 広域交通ネットワークの形成 ・沿線各都市間の所要時間短縮等により九州北西部の地域経済の活性化、高速定時性の確保に大きく貢献 物流効率化 ・輸送時間の短縮に伴う輸送コストの低減など物流効率化を支援 災害に強いネットワークの構築 ・並行現道である国道202号の災害時における代替路としての機能を確保 医療施設までのアクセス改善 ・第三次救急医療施設(唐津赤十字病院)への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減(CO ₂ , NO ₂ , SPM削減) 安全な生活環境の確保 ・並行する国道202号における交通事故件数減少への貢献に期待				

関係する地方公共団体等の意見

唐津市・伊万里市をはじめとする8市4町で構成される 西九州自動車道建設促進期成会(会長：伊万里市長)、西九州自動車道の沿線3県や福岡市及び関係道路管理団体(各県道路公社・西日本高速道路(株))で構成される 西九州自動車道建設推進協議会(会長：長崎県知事)等により早期整備の要望を受けている。
(平成27年8月、平成27年8月)

県の意見：

整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。

小さな都市が分散している当県において、地域や産業の活性化のためには、広域的な幹線道路ネットワークの整備が不可欠と考えており、西九州自動車道、有明海沿岸道路、佐賀唐津道路、国道498号の4つの幹線道路の整備を重点項目に掲げて、最優先に取り組んでいる。

西九州自動車道は、福岡県から唐津市・伊万里市を結ぶ重要な道路と認識しており、伊万里港では、2014年にコンテナ取扱量が過去最多を記録した。この背景には、西九州自動車道が大きく寄与していると感じており、伊万里道路が整備促進されることにより、さらなる人・物の交流が促進されると期待していることから、整備を進めて頂きたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は佐賀県及び九州全体より多い。国道202号の交通量は増加傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成7年度に事業化、用地進捗率37%、事業進捗率12%(平成27年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。